

(こくさいか山口 2004年4→6月号掲載記事)

～K T X開通で韓国パワー加速！～

下関市総合政策部国際交流課
(釜山広域市派遣職員)
古川 力

この4月より下関市役所から釜山広域市へ派遣されてまいりました。インターネットをはじめとした各種メディアを通じて今や韓国の情報もご関係の皆様には多数行き届いていることとは思いますが、私が韓国釜山の地で初めて感じたことをご紹介します。日韓の相互理解の一助になればと思っております。

釜山は今、大型施設の建設ラッシュ。2003年1月に広安里大橋が開通すれば、かつて市庁舎のあった南浦洞にロッテが2008年のオープンを目指し、107階建てのビルを含めた「第二ロッテワールド」を建設中。中心地で日本人観光客にも人気の高い西面には三星グループが大規模商業ビルを建設しています。このほか、来年(2005)10月のAPEC開催地が首都ソウル・済州島との激戦を乗り切って釜山市に決まったことに伴い、韓国一とも言われるリゾート地、海雲台(ヘウンデ)の海岸の一角にこれから専用会議場が建設されます。APEC誘致決定に伴い、地下鉄3号線の建設も来年9月の開業へ向けて拍車がかかりました。公共施設・商業施設はもちろん、大規模な高層住宅も市内のあちらこちらで続々と建設されており、市内のどこを歩いていてもこういった場面に出くわすので、本当にうらやましい限りです。

そんな中、本年4月1日、韓国国民の期待を背に、最高時速330km(営業速度300km/時)を誇る高速鉄道(KTX)がついに開通しました。

今回の開通は第一段階で、これまでのセマウル号でソウル～釜山間が4時間30分かかっていたのですが、2時間40分(2010年の全面開業時には1時間56分)となり、両都市は完全に日帰り圏内となりました。これにより、旅行者数の増加や航空会社との競争激化等、経済活動に様々な変化をもたらすことが期待されています。

韓国鉄道庁によれば、ソウル～釜山間の高速鉄道開通により、鉄道旅客の輸送能力は3.4倍増加し、既存の鉄道の貨物輸送能力は、既存の鉄道旅客の高速鉄道転換利用によって7.7倍増加すると見込んでおり、高速道路利用客および高速道路を利用する乗用車の減少等を総合的にまとめると、年間2兆4千億ウォンの経済効果(2001年度対比值、韓国鉄道庁)を創出する、としています。

国内の移動が陸上輸送のみですべて3時間圏内になるということは、日本の感覚ではちょっと考えにくいことですが、やはり「歴史的な交通革命」ということになるでしょう。

一方で、国民の反応はどのようなのでしょうか？歴史的大事業なのですから、国民の関心はかなり大きいようです。従って、期待が大きい分、冷やかな反応も少なくないようです。新聞等では「KTX, トラブル続き」とか、「国民の反応はイマイチ」「利用者への配慮が足りない」などといった記事も現在のところいくつか見受けられます。「産みの苦しみ」は、もう少し続くかも知れませんが、週末の釜山駅は、そんな野次はどこ吹く風、大賑わいです。利用者の皆さんがとても爽やかに見えました。

韓国では政府が昨年9月より週休2日制を導入し、釜山広域市庁（市役所）でも来年7月より完全週休2日制へと移行します。日本の9割に対し、民間企業の週休2日制はまだ6割程度という韓国。労使関係は大変のようですが、行政の導入により、民間企業の導入にも拍車がかかることが見込まれ、さらに「ゆとり」を重視した生活環境に変化しようとしています。週休2日制が浸透してゆけば、それにあわせて韓国経済もさらに変貌し、飛躍してゆくと思われまます。まだまだ内に秘めた要素をたくさん持っている韓国。KTXの開通によって、レジャーやビジネス等の様々な分野において、さらなる発展へ向け、条件は整ってきました。



韓国国民の夢を乗せて4月1日に開業を迎えたKTX
(提供：韓国鉄道庁)



KTX開業にあわせ、4月に全面リニューアルした釜山駅